

# 高貴なゴドモが楽しむ読み聞かせとは?

「つづまの会」代表 塚田 恵さん

町立の全ての児童館には、毎月、絵本の読み聞かせなどで、子ども達を楽しませてくださるボランティアグループの皆さんがいることをご存じでしょうか。

平成5年4月の東部児童館開設に伴い結成された読み聞かせボランティアグループ「つづまの会」。

その長年の地域貢献活動が認められ、愛知県の令和2年度ボランティア活動功労者表彰を受賞しました(20ページ参照)。

今回は、結成当初からのメンバーであり、グループの代表者である塚田恵さんにボランティア活動への想いなどについて伺いました。



## 「つづまの会」誕生

北部、西部、中部児童館に続き、町内で4番目の児童館として開設した東部児童館。塚田さんは、当時の児童厚生員に声をかけられ児童館に行くこと、突然、これまでに全く経験のない読み聞かせのボランティアをすることに。もちろん、同じように呼ばれたもう一人のメンバーとも初対面。まずは、グループ名を決めて欲しいと話があり、他の児童館のグループが植物や果物の名前だったので、メンバー二人とも同じ干支ということに、可愛らしく平仮名にして、「つづまの会」の誕生です。

## 楽しさを共有する

読み聞かせボランティアといっても、絵本を読むだけではありません。子ども達に楽しんでもらうため、現在は、人形劇や大型紙芝居なども行い、また、使用する小道具は、手作りされることも多いそうです。

塚田さんは、「読み聞かせでは、一連の流れを大切にしています。絵本を読む前に寸劇を入れたり、読み終わった後に感想を聞いたりして、参加者と双方方向のコミュニケーションを取るようにしています。私自身もその楽しさを共有し、一緒に楽しむことができるその空間が最高なんです!」と満面の笑みで語ってくれました。

## 高貴なゴドモを大切に

児童館での幼児親子を対象とした読み聞かせだけでなく、障がい者施設などで大人を対象に読み聞かせをすることもあり、「同じ絵本を読んでも子どもと大人で感じ方が違うので、とても面白いですよ。人間には、大人になっても心の中に高貴なゴドモがいるそうです。本当にそう思います。そのゴドモは、お話を純粋に楽しむことができます。楽しさを感じ

## ボランティアのすすめ

「最後に、塚田さんはボランティアについて、「ボランティアをする機会があつたら、難しく考えないで、少しでも興味があれば、とにかく参加してみてください。きっと、楽しめることが見つかるはずですよ」と生き生きとした表情で話してくれました。私たちもより人生を楽しむために、自分の中のゴドモを大人になっても失うことなく、いつまでも大切にしたいですね。」

